



日本建築仕上材工業会  
専務理事 井上 照 郷

7月5日早朝、テレビのニュースや新聞の1面記事では欧州合同原子核研究所（CERN）がヒッグス粒子を観測したと話題になっていた。何でも1960年代に提唱された標準理論では18種類の素粒子が存在するものの、あらゆる物質に質量を与えたとされるヒッグス粒子だけが1989年から続けられた実験でも確認されていなかったとのこと。つい最近では、アインシュタインの特殊相対性理論を覆す、光より速いニュートリノの発見が間違っていたと報道されたばかりだが、ヒッグス粒子の観測は陽子を衝突させる実験を約600兆回行い99.99998%の確率で間違いのないという。

ただし、私にとっては特に関心が深いニュースでもなく、右から左へ聞き流すのが日常なのだが、宇宙が誕生したビッグバンの瞬間、あらゆる素粒子は光速で運動し質量が0であったのに、ヒッグス粒子が抵抗となって物質に質量が与えられたことを知り、重さ、重力などの関連用語から、なぜか椎間板ヘルニアを連想するに至った。

実は、平成6年に重なる疲労で椎間板ヘルニアを患い、体を動かさない状態になったため、自宅まで救急車を呼んで20日程度入院した。医者のお話では2足歩行の人間の場合、脊椎は重力と平行方向なので椎間板に多くの負荷がかかるため発症するとか、宇宙空間のような無重力の状態では腰痛は起こらないとか、説明を受けたのを思い出した。

療法としては手術か安静かの選択であったが、当時は子供も幼くプロゴルファーの岡本綾子が米国で治療を受けたというパパイア酵素の注射も認められ

ていなかったもので、結局安静を選択し今日に至っている。

椎間板ヘルニアは椎間板が腰骨の間から突出した現象なので、除去しない限り安静による療法で完治することはないが、退院1年後からは年1～2回程度ではあるものの、ゴルフもできるようになり、過酷な運動さえしなければ生活への支障はほとんどなくなった。

通勤途上のバスの中でそんなことを思っていたら、責任という質量のない重さが頭をかすめた。平成19年度に財団法人日本塗料検査協会の評議員に就任したが、平成23年11月1日に一般財団法人へ移行してからも、引き続き評議員を拝命している。当時の評議員は22名（寄付行為では20人以上25人以内）で、現在は9名（定款では5名以上9名以内）と少なくなったばかりか、以前は理事会の諮問機関のような役割であった評議員会が、(1) 理事および監事の選任および解任、(2) 理事および監事の報酬等の額、(3) 評議員に対する報酬等の支給の基準、(4) 貸借対照表および正味財産増減計算書の承認、(5) 定款の変更、(6) 基本財産の処分または除外の承認、(7) 残余財産の処分、(8) 評議員の選任および解任を審議・決議することになり、質量のない重責を担うこととなった。今後とも関係各位のご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。